

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2024S 石井 剛



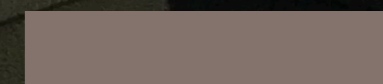
一高次にありま

30年後の世界へ

ポスト2050を希望に変える

東京大学 東アジア藝文書院

East Asian Academy for New Liberal Arts

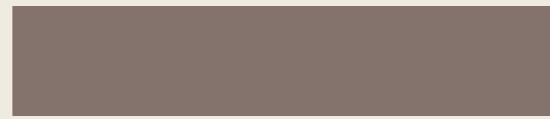


EAA

EAST ASIAN ACADEMY
FOR NEW LIBERAL ARTS

-
- 2019年設立
 - 北京大学とのジョイントプログラム
 - 「東アジアからの新しいリベラルアーツ」

- 「世界」と「人間」の再定義
- 空気の価値化



E A A

- リベラルアーツと東アジアの融合
- 「書院」としての学問共同体

- 研究
 - 教育
 - 社会連携
-



東京大学東アジア藝文書院



世界哲学と
東アジア

未来社会と
環境・健康

世界史と
東アジア

世界文学と
東アジア

研究

リサーチ・ユニット

藝文学



UIA
潮田総合学芸知
イニシアティブ
The Ushioda
Initiative of Arts



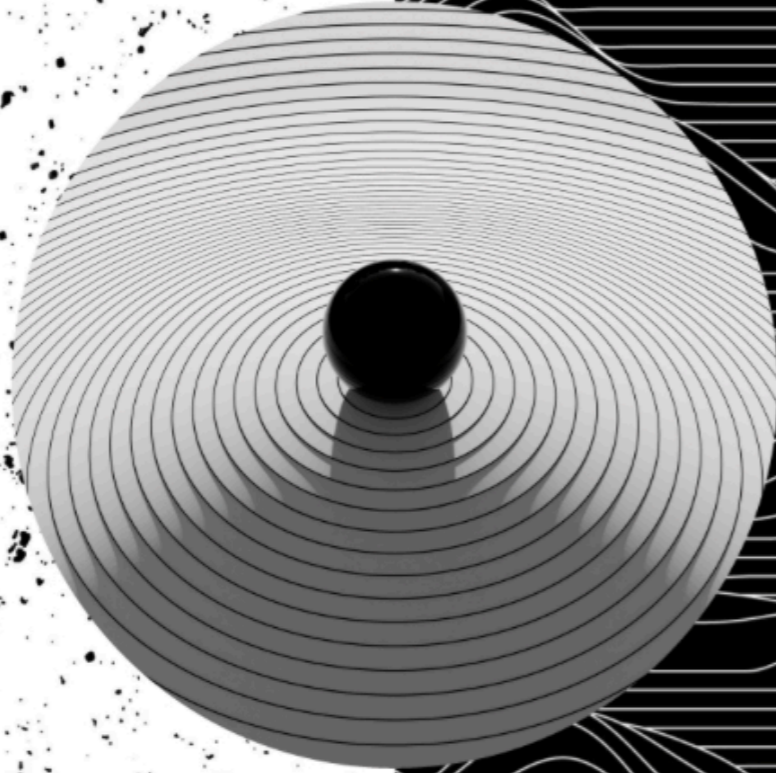
社会 連携

EAA コース
教養学部後期課程
「東アジア教養学」副専攻

教育



B 北京大学博古睿
研究中心
Berggruen Research Center
Peking University



GONGSHENG / KYŌSEI and CONVIVIALISM: FORGING A PLANETARY PHILOSOPHY AND ETHICS?

 **EAA**
EAST ASIAN ACADEMY
FOR NEW LIBERAL ARTS

東アジア藝文書院

March 29th-30th, 2024 • Tokyo

“共生”/Convivialism/惑星の哲学・倫理学

研究

 **EAA**
EAST ASIAN ACADEMY
FOR NEW LIBERAL ARTS

東アジア藝文書院



副専攻プログラム「東アジア教養学」

教育



東アジア藝文書院

空気の価値化 Valuing Air

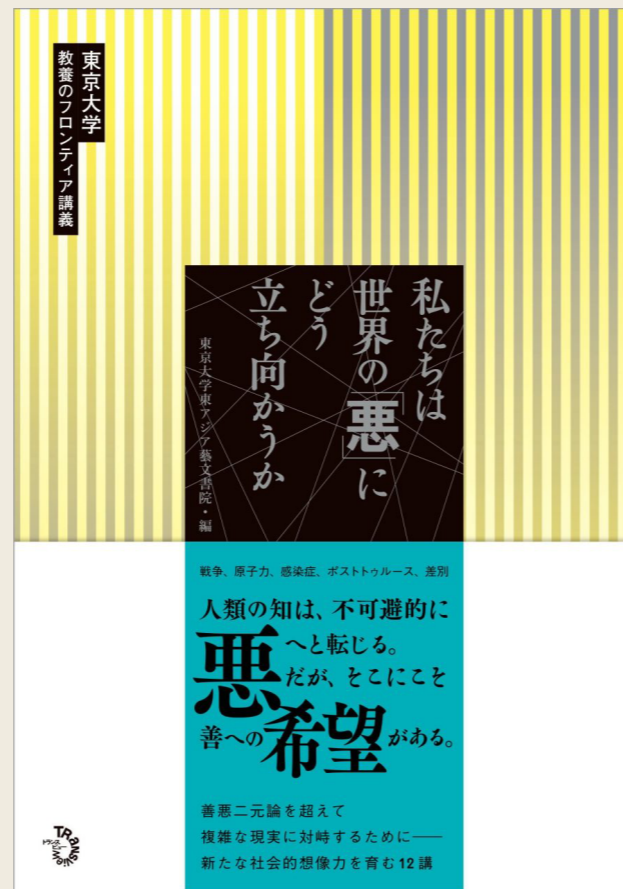
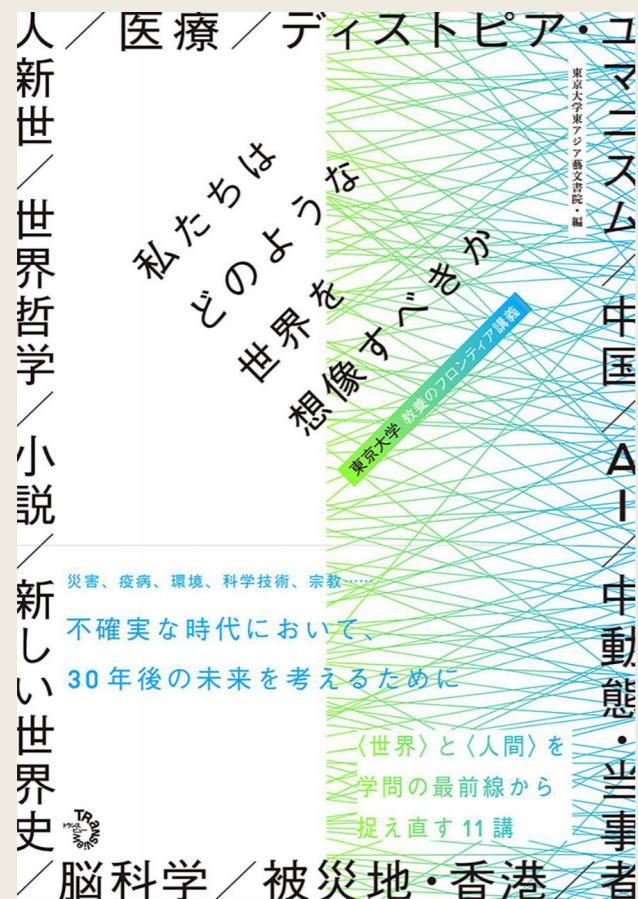
ダイキン-東大産学協創協定

社会連携



東アジア藝文書院

「30年後の世界へ」シリーズ



授業動画公開

2020年度、2021年度

2022年度 「「共生」を問う」

2023年度 「空気はいかに価値化されるべきか」

書籍シリーズ

2020年度 「「世界」と「人間」の未来を共に考える」

2021年度 「学問とその“悪”について」



東アジア藝文書院

30年後の世界へー

ポスト 2050を 希望に 変える

東京大学東アジア藝文書院（East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA）は2019年度から毎年、「30年後の世界へ」を共通テーマとしてこのオムニバス講義を開講し、様々な角度から「世界」を問うてきました。世界はわたしたちの外側にあるのではなく、わたしたちが世界を創っているのだと言えます。世界を問うとは、既成の価値を疑いながら未来に関与することです。問いは智慧を発動させ、その智慧を育むのが大学という場所です。この講義は大学の役割を行為的に表現し、**大学の新たな価値**を生み出す実験なのです。特に2023年度は「空気の価値化」という命題を学内外だけでなく社会と連携しながら問うてきました。

さて、30年後の世界はどうなっているのでしょうか。**気候変動**の影響を最小限に抑えるための目標として、多くの国々が炭素排出量実質ゼロ（**カーボン・ニュートラル**）実現の期限に定めているのが2050年です。しかしその実現がきわめて難しいことはいまや半ば公然の事実になりました。たとえ目標が達成されたとしてもそれで気候危機が解決されるわけではなく、わたしたちはその後も長期にわたって、自らの**文明が生み出した様々な災害**——自然災害、戦争、圧政、貧困など——の中で生きていかなければなりません。わたしたちは、21世紀の後半に向かって、長い危機の時代を生きていくこととなります。これこそは、「30年後の空気」が規定するわたしたち人類の基礎条件です。そこで、2024年度は「30年後」を越えて、この「**危機の空気/空気の危機**」の中から希望を見いだすべく、以下の三つの柱を中心に皆さんと議論したいと思います。

1. **復興の技法**。人は他と共同しながらつねに自らを変容させ、成長していきます。危機を変容や成長を促す好機であるととらえるなら、「復興」とは**人間の変容と成長のプロセスそのもの**であると言えるでしょう。危機の中からわたしたちはどのような復興のあり方を想像するのでしょうか。またテクノロジーはどのような役割を果たすのでしょうか。
2. **ロゴスの複雑化**。世界は分断の時代に入ったと言われます。20世紀までの世界を支えてきた政治制度の枠組みは地殻変動のように長期にわたる大きな変革を被りつつあります。いまの世界を構成している政治のロゴスは十全なものではないのかも知れません。**世界をあらわす(表す/現す/著す)ロゴスを豊かにすることが**不可欠でしょう。
3. **惑星時代の人間**。人新世や**プラネタリー・バウンダリー**などの概念は、近代的な人間観の改変を促しています。「人間」とは何か？この終わりなき存在論的問いを、人間を棲まわせているこの地球という環境との連続の中で再び定義することは可能でしょうか。可能であるとして、それはいかにして可能になるのでしょうか。

「30年後の世界」に希望をもたらすのは、他ならぬわたしたち自身です。皆さんと「問い」を共にして、この講義を**ポスト2050に向けた希望**の出発点にしたいと思います。

2024年度サブテーマ

ポスト2050を希望に変える

1. 復興の技法
2. ロゴスの複雑化
3. 惑星時代の人間



東アジア藝文書院

教養学部前期課程学術フロンティア講義
同後期課程「高度教養特殊講義（東アジア教養学）」

2024年度 S セメスター



第2講 (4月19日)

溝口勝

(農学生命科学研究科)

レジリエンスと地域の復興

農学



東アジア藝文書院



第3講 (4月26日)

高橋伸一郎

(農学生命科学研究科)

人類はこれからどのような食生活をしていくべきか—次世代栄養学と One Earth Guardiansからの提言

応用動物科学



東アジア藝文書院



第4講 (5月3日)

伊達聖伸

(総合文化研究科)

100年前の日仏交流と平和思想
——「気象台」としての宗教学

宗教社会学



東アジア藝文書院



第5講 (5月10日)

酒井直樹

(コーネル大学/東京カレッジ)

外人にかたりかけること

——国際性(transnationality)の場面と
異言語のかたりかけの政治

思想史・批評理論



東アジア藝文書院



第6講 (5月15日)

羽藤英二

(工学系研究科)

復興の未来

都市工学



東アジア藝文書院



第7講 (5月24日)

福永真弓

(新領域創成研究科)

藻と人間

—惑星サルベージとテラフォーミング
の倫理

環境社会学



東アジア藝文書院



第8講 (6月7日)

野澤俊太郎

(東アジア藝文書院)

空間・技術・創造力
——建築史からの示唆

建築学



東アジア藝文書院



第9講 (6月14日)

中島隆博

(東洋文化研究所)

人間復興と精神復興

中国哲学



東アジア藝文書院



第10講 (6月21日)

富澤かな

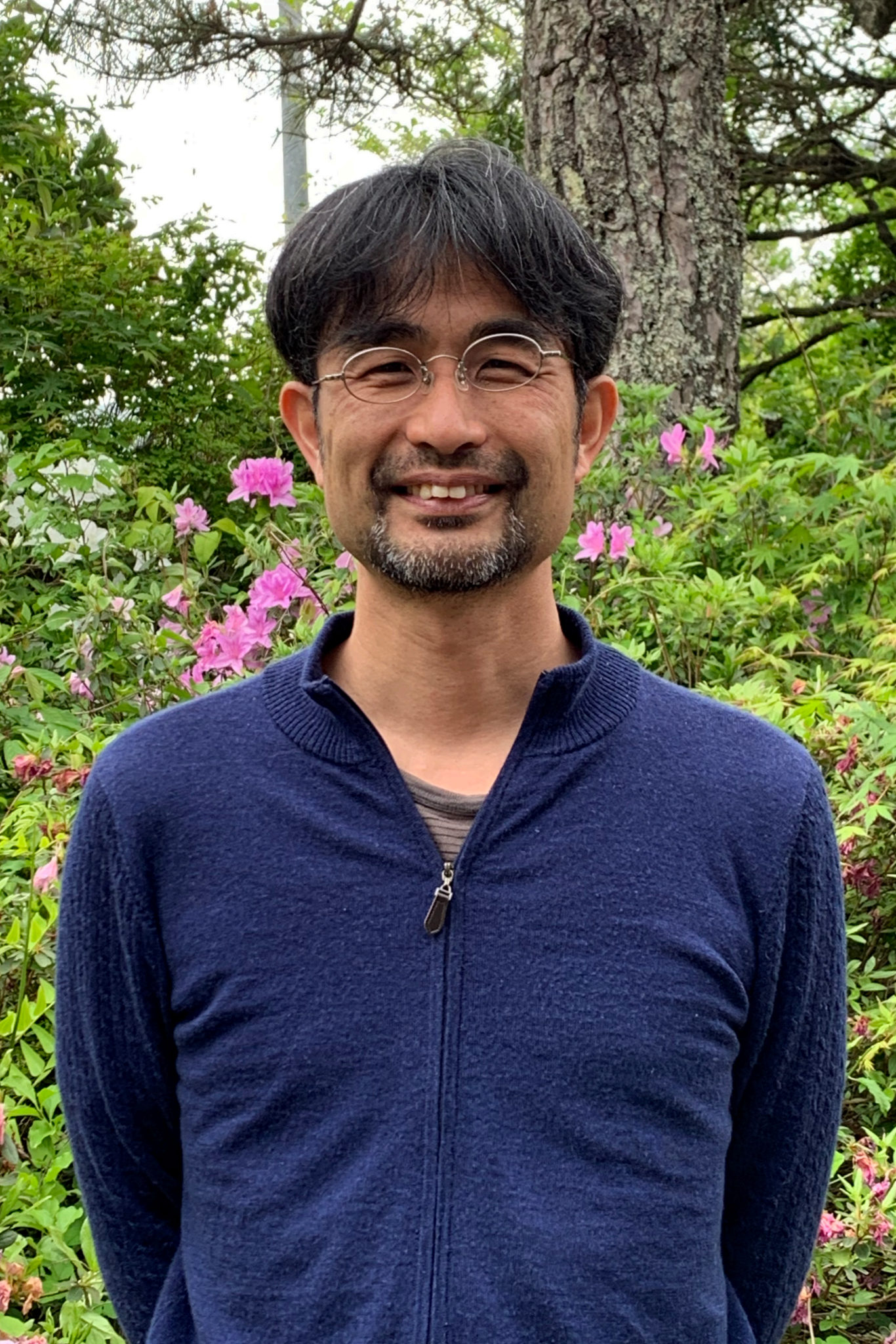
(人文社会系研究科)

いま「東洋」と「近代」を考えて、
未来に何をのぞめるだろう？

宗教学



東アジア藝文書院



第11講 (6月28日)

藤原辰史

(京都大学人文科学研究所)

分解の哲学

— 「食べる惑星」の脱領域的研究

歴史学



東アジア藝文書院



第12講 (7月5日)

岩川ありさ

(早稲田大学文学学術院)

パンデミックを銘記する

現代日本文学



東アジア藝文書院



第13講 (7月12日)

石井剛

(東アジア藝文書院)

希望のロゴス

——危機における「生」について人類の智慧が教えてくれること

中国哲学



東アジア藝文書院